

2021 年度第 2 回運営委員会・研究分科会代表者合同会議議事録

日 時：2021 年 11 月 19 日（金） 11：00～11：30

場 所：Web 会議

参加者：細本有理子（成蹊大学）、藤順一（早稲田大学）、田邊豊（亜細亜大学）、久留宮健（法政大学）、
西城智架（慶應義塾大学）、吉井香世（専修大学）、杉山友美（関東学院大学）、森浩生（玉川大
学）

和漢古典籍研究分科会代表：小林絵美（獨協大学）

事務局：水上裕子、島田貴司、佐々木綾花（立正大学）

オブザーバー：宮澤小野花（専修大学）、湯浅知二（亜細亜大学）

※順不同、敬称略

議事概要：

1. 2021 年度和漢古典籍研究分科会の活動報告について

和漢古典籍研究分科会代表より今年度の 10 月までの活動について報告があった。

2. 2022 年度研究分科会について（資料 05）

研究部担当理事校より、12 月に行われる第 6 回研修分科会において、次年度以降の在り方について説明を行った上で今年度の研修分科会参加者に向けて PB 研修への参加を促す旨話があった。

体制として、IAAL に業務委託を行いコーディネーターやアドバイザーの確保を行う予定であるが、人材の確保がどの程度可能か確認する必要がある。併せて、IAAL への見積もり依頼および連絡体制の確保、次年度予算への計上、研究発表大会の実施方法の検討を進める必要がある。前研究部担当理事校より従来のスケジュールとして、12 月に具体案を提示し 1 月より募集を行っていた旨共有がなされた。

また、従来の対面で行われていたイベント時の資料配布、加盟館へのメール通知や HP 掲載のみでは、課員や委託職員への周知が十分でない点を踏まえ、今後の広報戦略については検討を進める必要がある。一方、今年度のオンデマンド研修において、Excel での申込から Forms に変更したことで応募数が増加した実績もあることから、申込方法としては Forms の活用が有効的であるとの意見も挙げられた。

東地区および運営委員会の体制に関しても見直しが必要となるため、研究部担当理事校が上記の意見を取り纏め体制や予算の確保等について具体的な内容を提示する。

3. その他

なし

配付資料：

資料 05 研究分科会・研修分科会方向性検討たたき台

以上